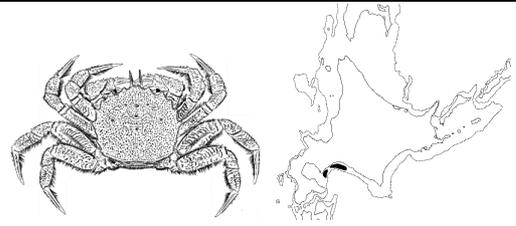


28.ケガニ

主な漁業と漁期
けがにかご：7月中旬～8月下旬



胆振太平洋海域

生態

◆分布・回遊

オスの高密度域は登別～白老沖に形成されることが多くなっています。雌雄ともに季節的な深淺移動を行い、1～5月は水深20～60m、9～10月は水深90～110mが主分布域となります。漁獲対象サイズのオスは長期的に西へ移動する傾向があり、噴火湾海域へ移動する個体もいます。

◆産卵期・産卵場

- ◎産卵期：7～8月と11～翌4月の2群があると考えられます。幼生ふ化期は1年以上経過した3～4月です。
- ◎産卵場：不明ですが、抱卵個体は噴火湾奥部に多く分布します。
- ◎産卵生態：交尾・産卵は、メスの脱皮に合わせて2～3年ごとに行われます。交尾から産卵までは半年以上を要し、メスは産卵後、受精卵を自分の腹肢に付着させ、幼生がふ化するまで保護します。

◆成長・成熟

	甲長(mm)		体重(g)	
	オス	メス	オス	メス
2歳	49	42	62	39
3歳	61		124	
4歳	74		221	
5歳	87		365	
6歳	87		374	
7歳	101		570	
8歳	101		595	

*) 2001～2013年の測定データ、三原ら(2016)、Abe(1992)より

*) 加齢の基準日：4月1日

◎成熟年齢・甲長

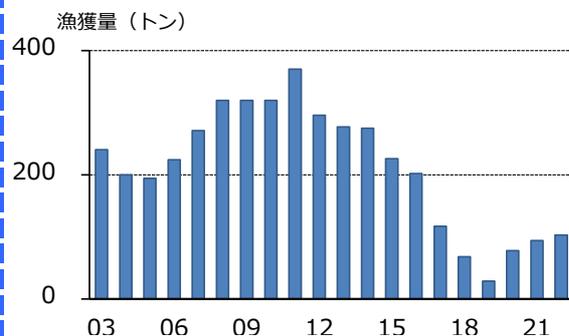
- ・オス：甲長49mm、2歳から成熟する個体が見られます。
- ・メス：甲長42mm、2歳から成熟する個体が見られます。

資源評価

[評価年] 4月～翌3月

[資源水準の指標] 資源調査による資源量指数

2022年度の漁獲量は約103トンで、前年より増加しました。2022年度の資源水準は低水準で、翌年にかけての資源動向は減少と判断されました。本資源は新規加入が低位である状態が続いており、資源状況は低水準が続いていることから、今後も資源動向に十分注意するとともに、許容漁獲量をABCの目標値を基本に設定するようにし、資源状況に見合った資源利用を図っていく必要があります。



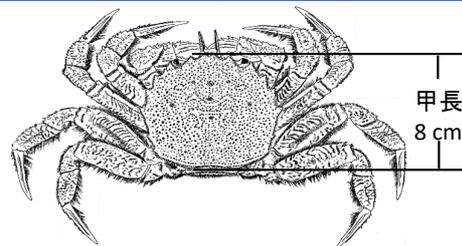
2022年度
の水準 低水準

2023年度
の動向 減少

資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

- 北海道漁業調整規則
メスおよび甲長8cm未満のオスの採捕が禁止されています。
- 許可の条件等
許可隻数、漁期、かご数・目合の制限をしています。また、毎年の資源評価に基づき、許容漁獲量を定めています。



☆現状の措置を遵守すると同時に、急激な資源の減少に対し、より適正な資源利用を図っていく必要があります。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
北海道立総合研究機構 栽培水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477
電話 0143-22-2327